



VONS (学生団体)

沖縄のために私たちができること
踏み出した小さな一歩が、大きなうねりになっていく



今回のフードプロジェクトも沢山の寄付が集まった。
ボランティアも全員揃っての1枚

2020年、当時高校生だった2人で団体を立ち上げた。2人ともアメリカ留学を経験し、現地の高校生の郷土愛やボランティア精神に触れ、刺激を受けていた。「困っている人がいるから。」と、段ボール片手に食料を集めに行くようなことを、ごく自然にできる同世代の子が沢山いたという。

コロナの影響で、留学を3カ月前倒して日本に戻ることにしたが、帰ってみると状況は一変していた。休校で給食が食べられない、子ども食堂にも材料がない…とにかく食料が足りないという話を至る所で耳にした。それならば…と、アメリカで目の当たりにしたフードドライブ(家庭で余っている食料等を持ち寄り、地域の福祉団体や施設等へ寄付する活動)を自分たちもやってみよう!と。

沢山の支えや協力の下、実現できたフードドライブ

近隣の小祿自治会が同じような活動に取り組んでいたため、まずは話を聞きに行くことに。学生主体で自分たちもやってみようという旨を伝えると、丁寧にアドバイスしてくれたのだそう。大人サポーターのバックアップもあり、準備は着々と進んでいったが、いざフードドライブを実施しようとする、その場所探しに苦戦した。ネームバリューや実績も何もない学生団体であるため、なかなか話が進まず、場所を提供してくれるところは見つからなかった。

そこで、各市町村の社会福祉協議会へ相談してみることに。募金活動等で繋がりのある企業や店舗を紹介してもらうことができ、困っている方が今必要とするものをヒアリングすることもできた。例えば、シングルマザーが多いエリアでは、粉ミルクや紙おむつのニーズが高かったため、そのような実状に合わせた支援ができるよう告



食料の寄付を呼び掛ける学生の様子

知の内容等を工夫した。

この他、食料を仕分けするためのダンボールを提供してくれる企業もあり、色んな方面から支えてもらって自分たちの活動ができていると実感している。

カテゴリー	子どもの健全育成／健康・福祉		
住所	—	連絡先	vons.mug20@gmail.com (公式メールアドレス)
設立	2020年	人数	14名
主な活動	食料品等を集め、団体へ寄贈し、必要とする人の元へ届けるフードプロジェクト		
利用施策	市民活動チャレンジ助成事業(2020年度)		
受賞歴	未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰(2021年度)		

ボランティア活動を通して、1人1人感じてくれるものがあればいい

取材当日は、小学生から大学生まで多くのボランティアが食料の寄付を呼びかけ、丁寧に消毒をした上で受け取った食料の仕分けを行っていた。1回あたり平均1,000食ほどの寄付が集まるため、和気藹々とした中でも手際よく作業が行われていく。ボランティアの面々は、大人サポーターやVONSメンバーからの声掛けを機に参加し、その後も複数回手伝ってくれることが多いという。初めは、内申点や推薦に有利になるからという理由

だったのも、「人のために動くのっていいな。」と、また手伝いにきてくれる。「きっかけは何でもいいので、ここに来ることで自分なりに感じてくれるものがあれば嬉しい。」と代表の島袋さん(琉球大学)は言う。「行動したいと思った時、VONSのことを思い出してくれたら。あの人たちもやっていたから、自分もできるかも。そう思う気持ちが育まれていく団体になればいいな。」とも。

受け継がれるVONSのチャレンジ精神

VONSとしての活動の幅は、今後益々広がりを見せそうだ。来年度は、高校生に自分たちの活動を伝え、沖縄にある課題を共に考える勉強会も開催予定。各地域の社協とも話し、学生が地域のために活動できるような仕組み作りを進めているという。この他、フードドライブの規模も拡大していきたいし、SDGsに賛同する企業とのコラボ企画も考えているそうだ。

学生団体のため、進学等でやむなく卒業していくメンバーもいるが、帰省のタイミングで活動に参加したいと、名簿に名前を残している人もいるという。また、VONSの仲間に入りたい、ここで新しいことをやってみたい。そんな後輩の声に応えるため、これからもずっと続けていけるような団体にしたいのだそう。「代表を早めに引き継いで、後輩をどんどん育てていきたい。」と島袋さん。

まーさん、うちなー、ごはん、それぞれの頭文字をとり「MUGムグフードプロジェクト」と名付けたフードドラ



イブの活動。学生達の主体的な行動で始まったこの活動を通して広がりつつあるチャレンジ精神は、今後大きな進化を遂げ、沖縄の未来を担う若き世代に受け継がれていくことだろう。